〈新木場〉気になるお店 スーパーカーメンテナンスガレージ 「株式会社イーストワン

月報委員 関野 守康

今回は新木場1丁目にある、㈱イーストワン様を訪問させて頂きました。こちらは1970~1990年代のスーパーカーを専門に修理レストアをされているお店です。

スーパーカーとは、1975年頃に少年ジャンプに連載されたマンガの影響により当時の小中学生の間で イタリアやドイツの高級スポーツカーが大人気となり、日本中にスーパーカーブームが巻き起こった時 に出来た言葉だと思われます。当時中学2年だった私は勉強した数学の公式などはほとんど忘れてしま

いましたが、スーパーカーの名前は今でも覚えているので不思議です。

ガレージのシャッターを開けてもらうと、中にレストア作業中の12気筒エンジンむき出しのイタリア ランボルギーニの真赤なミウラP400があり圧倒されました。ミウラは1966~1973年にランボルギーニから販売されていましたが、この車はヘッドライト周りにまつ毛の様なフィンが付いているので初期のモデルだと思われます。高価であった為か、当時から街中ではほとんど見ることはありませんでした。現在取引された場合の価格は、1億とも2億とも言われ芸術品の域に達しています。

その奥には、以前の塗装をすべて剥がし新たにシルバーに塗られ、新車以上の輝きを放つレストア作業中の1971年式と思われるフェラーリのディーノ246GTがありました。ディーノは2400ccの6気筒エンジンの為構造もシンプルで壊れにくく、スーパーカーの中では車内も広く乗りやすいので、1度手に入れた方はほとんど手放さないそうです。こちらも4000万円以上で売買されていますが、日本中を探しても売りに出されているのは1~2台しかありません。







(株)イーストワンの山元代表に部品の調達方法を 尋ねると、部品はネットを使いイギリスやアメリ カから探すそうです。特にイギリスには古い車の 部品が豊富にありディーノの物はほとんどあるそ うです。

直すのに難しい車はありますかとお聞きしたところ「特にない。人間の組み立てたものなので必ず直せると思ってやっている。」との答えに、スーパーカーを30年直し続けている山元代表の自信が伝わってきました。

現在レストア中の車を見せてもらいながら修理 部分の説明を聞かせて頂きました。たとえば新し いビスをそのまま付けると、そこだけ輝いてしま い他の部分と合わなくなってしまいます。そのた めビスを削り、輝きを抑えてから付けるそうです。 パイプ1本、ビス1本にいたるまでオリジナルに 近づける努力をされていてその仕事ぶりに感心さ せられました。オーナーの方々が安心して大切な 車のレストアを山元代表に任せるという気持ちが 良く分かりました。





(株)イーストワン代表取締役 山元俊治様







スーパーカーオーナーの年齢は、50歳~60歳前後の自営業の方が多いそうです。修理代についてはある程度の見積は先に出すそうですが、フェラーリ、ランボルギーニのオーナーの方は金額のことはあまり言わないそうです。当時のスーパーカーを直せるメカニックも年々少なくなり修理できる店も限られることと、常連客が多く信頼関係で修理を任さることが多いそうです。

この時代のスーパーカーは現在値段が高騰しています。しかし1度売ってしまうと2度と手に入らないかもしれない為、いくら値段が上がっても、売らないで長く持っている方が多いそうです。やはり少年時代の憧れは、歳を重ねてからも一生の宝物なのかもしれません。

株式会社イーストワン 東京都江東区新木場1-6-20 TEL 03-6457-0617 FAX 03-6457-0618

